

# リニア長野県駅の起工式にあたって

## リニア、上郷・座光寺地区の今

今から5年後の2027年の開業が絶望的といわれる中、2027年の開業を目指して、12月22日長野県駅の起工式が上郷飯沼で行われました。12月18日付け信濃毎日新聞にも報道されていますが、リニア駅とリニア関連事業で移転をせまられている方々に対する十分な説明と補償がされない中、駅建設地や周辺整備事業による移転を拒否される方が何人もみうけられます。リニア駅及び周辺整備事業で移転対象となるのは190世帯、そのうち約100世帯の移転先が決まったとのことですが、移転先は決まったが最近の建築費の高騰で現在の補償額ではこれからの生活が苦しくなるとの声が寄せられています。

また、リニア通行時の騒音対策で座光寺地区では防音防災フード（覆い）の設置をかたくなに拒否するJR東海に住民の不満の声が出ていると報じられています。

静岡県の未着工問題に見通しはなく、東京・愛知など都市部のシールドトンネル工事が開始早々に停止している状況です。

5年後の開業が見通せない中、そんなに工事ばかり急いでどうするのでしょうか？もっと、住民、地権者、所有者に寄り添った、現実にあった話し合い、補償をするべきではないでしょうか？

こうした問題を解決しなければ、リニアの先は見えてきません。



(リニア駅予定地。手前などまだ未取得の土地もある)

私たち「リニアから自然と生活環境を守る沿線住民の会」は引き続き下記内容を飯田市、JR東海に要望していきます。

●風越山トンネルはどの土地、家屋所有者の下を通過するのかを明らかにし、その対象者及び周辺住民に対して説明会を開催し丁寧に住民の要望、意見を聞き工事を進めること。

●大深度上を含む土地、家屋の所有者の許可を得ずに工事を進めることは違法行為でありすべての所有者の許諾を得ること。

●風越山トンネル上、及び周辺の家屋調査、地盤調査の実施。

●土曾川、新戸川の土石流災害防止のため、JR飯田線下の新戸川暗渠を拡大すること。

●長野県駅の周辺整備は開業時期が明確になった段階でその時の実情に合った整備をすること。

### リニアと全国鉄道網

鉄道開通150年の今年、地方路線の廃止の論議が進み全国の鉄道網は細切れにされようとしています。

35年前の国鉄の分割民営化は実は「会社化」。JR各社は都市部や新幹線、関連事業の収益で不採算路線を含めたネットワークを維持できるだろうというものでした。しかし、全国鉄道網という課題を民間会社にまかせてよいものでしょうか。大都市周辺や新幹線以外の地方路線では、いくら住民から求められる必要な公共サービスであっても採算がとれるものではなく、全国的な鉄道網の維持は民間ではなく国が担うべきものです。

国鉄民営化前後に廃線になった路線は45。今回、国はさらに50区間程度の路線を廃線にしようとしています。国の提案は廃線にしたいくないなら地元自治体の負担を増やせというものです。さて、鉄道輸送はトラック輸送とくらべ環境に対する負荷の少なさでは圧倒的に優れています。貨物輸送の鉄道利用促進は脱炭素社会に向けての切り札です。以前は、飯田線も貨物列車が走っていました。鉄道の運ぶ物資によって、また鉄道で産品を出荷することで、私たちは暮らしてきたのです。

国はJR東海とともにリニアを国家的プロジェクトとして推進しています。その建設費用は莫大なものです。テレワークの普及などでリニアの必要性についても疑問が出されています。また新幹線の4倍もの電力を要し、トンネル残土の谷埋め処分や水枯れ問題で地方の住民に犠牲を強いるものです。リニア計画に必要な費用は全国的な鉄道網を未来に残すために使うべきです。

### リニアから自然と生活環境を守る沿線住民の会

代表世話人 熊谷清人  
大坪勇  
北林強

電話 090-1865-8868 (北林)

2022 / 12 / 22 発行